



# 考え，議論する道徳を目指して

～「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、すべての児童生徒・教師が  
能動的な学習者になるために～



# はじめに

---

価値観の多様化や人間関係の希薄化等に伴い、子どもたちの人とよりよく関わる力や困難を克服する力が低下していると言われていています。子どもたちに内在する「よりよく生きようとする力」を信じ、学校・家庭・地域が一体となって、生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断、規範意識等の道徳性が養われるよう、道徳教育の一層の充実が必要です。

平成30年度\*から、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として新たに位置付けられ、主体的・対話的で深い学びとなるよう、言語活動、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など指導方法の一層の工夫(授業改善)が求められます。そうした中、本市では、教職員の大幅な世代交代期において、これまで培われてきた優れた実践知、経験知をしっかりと伝える仕組みづくりが喫緊の課題です。

本パンフレットは、道徳教育の教育実践に加え、授業づくり、評価のポイント、小中一貫、家庭・地域との連携等を紹介するものです。家庭や地域との共通理解・相互連携を深めながら、各学校において、道徳教育の目標の実現に向け、全教職員によるカリキュラム・マネジメントに基づいた創意工夫に溢れる取組が進められることを期待します。

(※小学校:平成30年度から,中学校:平成31年度から)

## もくじ

---

道徳教育の目標と「特別の教科 道徳」の目標	1
道徳の授業づくりフレーム	2
授業づくりのポイント	3
多様な指導方法で授業をつくる	4
多様な指導方法による道徳の授業づくりのイメージ	5
評価のポイント	6
授業実践例 ～小学校編～	9
授業実践例 ～中学校編～	12
小中一貫で進める道徳教育	13
家庭・地域と連携した道徳教育	14
道徳教育推進教師の役割	15
「特別の教科 道徳(道徳科)」の内容項目の一覧	16

## 道徳教育の目標

自己の生き方(中学校「人間としての生き方」)を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと。



## 「特別の教科 道徳」の目標＝ 育成すべき資質・能力

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値<sup>※1</sup>についての理解<sup>※2</sup>を基に、自己を見つめ<sup>※3</sup>、物事を(中学校「広い視野から」追記)多面的・多角的<sup>※4</sup>に考え、自己の生き方(中学校「人間として生き方」)についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力<sup>※5</sup>、心情<sup>※6</sup>、実践意欲<sup>※7</sup>と態度を育てる。

### 語句の説明

- ※1 「道徳的諸価値」:人間らしいよさのこと。例えば、思いやりの心、生命を大切にすること、くじけず努力する心など、すべての人間に内在するもの。
- ※2 「道徳的諸価値を理解」:道徳的価値は人間がよりよく生きるために大切なことであることを理解(価値理解)すること。ただし、常に実現するのは難しく、それが人間の弱さであることを理解(人間理解)し、また、その実現には色々な見方・考え方があり、人によってその捉え方が異なることを理解(他者理解)すること。
- ※3 「自己を見つめる」:これまでの自分の体験や経験の際に、思ったこと、考えたこと、感じたことを通して(思い出して)、ねらいとする道徳的価値を「自分ごととして」捉え、深めていくこと。
- ※4 「多面的・多角的」:「多面的」とは学習対象としている物事が様々な面を持っていること。「多角的」とはそうした物事を様々な角度から考察し理解すること。
- ※5 「道徳的な判断力」:時と場に応じて、人間として(道徳的に)どのような行為・行動・言動がふさわしいか判断する力。
- ※6 「道徳的な心情」:人間としてよりよい生き方や善(よいとされること)を志向する(大切にしたい、重要だと思う)感情。
- ※7 「道徳的な実践意欲」:その時にふさわしい行為・行動・言動を行おうとする意欲や積極的な心構え。

学校における道徳教育は、道徳の授業を「要」として学校の教育活動全体を通じて行うことが必要です。そのため、各教科等でもそれぞれの特質を生かした道徳教育を行わなければなりません。その前提となるのが、**道徳教育の全体計画と道徳の授業の年間指導計画**です。作成に際しては、児童生徒、学校及び地域の実態等を考慮して、重点的な指導や内容項目間の関連を踏まえた計画となるよう工夫することが必要です。また、時系列で内容項目と教育活動全体との関連を明確にした「別業」も大切です。

# 道徳の授業づくりフレーム

## ねらい

「**・A・**を通して、**・B・**(しようと)する**・C・**を育てる(養う, 高める, 豊かにする等)」

(例) 地域の方とのふれあいの後のわたし(登場人物など)の気持ちを考えることを通して、郷土の文化や生活に親しみ、愛情をたくとする心情を育てる。

- A 教材の活用部分や活用方法(中心発問等), 学習活動等を簡潔に表記。登場人物の道徳に関わる行為や道徳的に変化する行為等について考える。(気付く, 共感的に理解するなど)
- B 内容項目やその指導の観点等から適切に引き出す。
- C 道徳性(道徳的実践力)の諸様相(道徳的判断力, 心情, 実践意欲と態度)等を示す。

## 導入

- 1 本時のねらいに沿った「めあて」を確認し提示(板書)する。
- 2 直接「めあて」につながる問いかけを行う。

ex ▶ ○○○という言葉聞いたことはありますか? ○○○の意味を知っていますか?  
○○○の経験はありますか?

挿絵やキーワードを提示しながら読む(視聴する)。

「めあて」は「振り返り」をイメージして設定する。また、必ず導入時に示すばかりではなく適切なタイミングを図ることが大切。

展開の冒頭や途中で、教材のあらすじや登場人物の相関図、場面図等を示し、内容を整理しながら進める。すべての児童生徒に状況がわかるよう工夫を。

## 展開

教材を範読する(視聴する)。

**基本発問** 中心発問につながる2つ程度の発問を行う。

ex ▶ (登場人物などは)どんなことを考えただろう? なぜ の気持ちになったのだろう?

**中心発問** 中心発問に対する思いや考えを交流し、まとめる。

ex ▶ (登場人物などは)○○○された時、どんなことに気付いたのだろう?

▶「ねらい」にせまるための思考の深めどころ

**言語化** ▶ 中心発問に対する自分の思いや考えを道徳ノート・ワークシートに書く。

**交流** ▶ 自分の思いや考えをグループや全体で交流する。

**ゆさぶり** ▶ さらに思考を深めるために新しい視点を与える。

ネームプレートや付箋を用いて自分の立場を明確にさせる工夫を。

児童生徒の発言等に対して、ゆさぶりをかける。

「考える」時間をしっかりと確保。

- 4 **振り返り** これまでの生活を振り返り、教材の内容と重ねて、ねらいとする道徳的価値について考える。

**整理** ex ▶ 今まで○○を経験したことはありますか? その時、どんなことを思いましたか?



中学校になると、生徒はある程度抽象的な考えができるため、場合によっては、振り返りを行うより、異なる教材を用いて余韻が残るよう工夫を。

体験・経験だけでなく、その時の思いや考え、気付きを聞くことが大切。

## 終末

**まとめ** ▶ 学習を振り返り、本時のめあてに対する自分の思いや考えを書きまとめ、交流する。

ex ▶ 今日の学習を振り返って、○○について思ったことや考えたことをまとめましょう。

- 1 常に「めあて」を意識しながら。
- 2 これまでの「自分」と重ねて、本時のねらいとする「道徳的価値」につなげる。
- 3 道徳ノート・ワークシートには、「自己評価欄」と「自由記述欄」を設ける。
- 4 これからの自分に生かしていきたいことを記述している児童生徒を意図的に指名し発表させる。
- 5 自らの考えを深められるよう余韻をもって終わることも大切。

道徳ノート・ワークシートは評価資料として活用し、授業改善に生かす。

## 評価

## 授業づくりのポイント

内容項目は、児童生徒が日常生活の中でその大切さを自覚し、自らの道徳性を養う窓口となるものです。それぞれの価値をどう組み合わせ発展させていくか、主体的に自分の生き方についての考えを深められる学習を目指しましょう。

### ねらい

学習指導要領に示される内容項目の指導の観点を踏まえ、学級の児童生徒の実態と教材から、「育てたい道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」は何かを検討してつくります。



### めあて

「ねらい」は教師目線の本時の指導目標です。「めあて」は児童生徒目線の本時の学習目標です。「めあて」は児童生徒に学習の見通しを持たせると同時に、教師の指導指針となります。

「めあて」を提示(板書)することで、児童生徒は学びのゴールを知り、主体的な学び、深い学びにつながります。また、児童生徒の学習への前提条件を揃える視点からも重要です。

### 基本発問

授業の展開において、「中心発問」につながるよう簡潔に行います。

### 中心発問

本時のねらいにせまるための思考の深めどころです。授業の核となる最も重要な問いとなります。

「中心発問」は、①誰の視点で、②どの場面で、③何を問うのか(思いや気持ち、考え、気付き、行動の根拠等)、を考えることが重要です。そのため、教材の分析を欠かすことができません。

### 思考を深める手立て

主体的・対話的で深い学びとするためには、一問一答型ではなく、読み物教材による学習に加え、言語活動をもとに、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習が効果的です。

(本パンフレットP4「多様な指導方法で授業をつくる」を参照)

### 振り返りとまとめ

ねらいとする道徳的価値にせまるためには、教材の中の登場人物とこれまでの自分とを重ね合わせ、自己を見つめることが大切です。その際、同じような体験・経験があることだけではなく、その時に思ったことや考えたこと、気付いたことを問いかけることが重要です。

### 評価

授業中の観察と児童生徒の発言に加え、道徳ノート・ワークシートの自己評価や記述内容を通して、児童生徒の道徳性の成長の様子を把握します。児童生徒の自己評価や自由記述を大切に、道徳的成長を認め励ますもの(個人内評価)にすることが重要です。

(本パンフレットP6「評価のポイント」を参照)

### Check!

発達障害等のある児童生徒には、言葉の意味を丁寧に伝えることや、音声による情報を付け加える、適度な時間で活動を切り替え、注意が持続できるようにする、短期的で具体的な見通しを示す、ルールを明文化するなど、学習上の配慮や工夫が必要です。

※国立特別支援教育総合研究所「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」等も参照してください。

## 多様な指導方法で授業をつくる

道徳の授業においては、自分ならどのように行動・実践するかを考え、自分とは異なる意見と向き合い議論するなど、道徳的価値について多面的・多角的に学べるように多様な指導方法を工夫して、「考え、議論する道徳」の授業とすることが大切です。単なる生活経験の話し合いや登場人物の心情理解に終始する指導は避け、児童生徒の実態を踏まえ、主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが必要です。

下記はその例ですが、組み合わせるなどして、多様な指導方法を工夫しましょう。

### 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

#### 指導方法の効果

児童生徒が読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。

#### 指導上の留意点

教師に明確な主題設定がなく、児童生徒や教材に対する理解や分析などの指導観に基づく発問がなければ、登場人物の心情理解のみの指導になりかねない。

### 問題解決的な学習

#### 指導方法の効果

- ▶ 出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。
- ▶ 他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。
- ▶ 問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。

#### 指導上の留意点

明確なテーマ設定のもと、

- ▶ 多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- ▶ 上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- ▶ 議論し、探究するプロセスが重視されているか。といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。

### 道徳的行為に関する体験的な学習

#### 指導方法の効果

- ▶ 心情と行為をすり合わせることで、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。
- ▶ 体験的な学習を通して、取りうる行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。

#### 指導上の留意点

明確なテーマ設定のもと、

- ▶ 心情と行為との不一致や葛藤を意識させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。
- ▶ 上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な学びのない生徒・生活指導になりかねない。



## Check

「考え、議論する道徳」を目指し、児童生徒が深く考える主体的・対話的な学習を行うには、まず教師自身が能動的な学習者にならなければなりません。

主題やねらいの設定が不十分な単発的な授業展開や、指導の「型」をなぞるだけの指導ではなく、学級や児童生徒の実態から柔軟に授業を創造・構想します。道徳教育推進教師と協働しつつ、家庭や地域との連携も含め、主体的・対話的な道徳の授業を企画・実践していくことが大切です。

# 多様な指導方法による道徳の授業づくりのイメージ

「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」報告より

		読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
ねらい		教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きていく上で出会う様々な問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技(ロールプレイ)などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
	<b>Check!</b>	ねらいの設定にあたっては、学習指導要領における道徳科の目標をしっかり踏まえたものとなるよう留意すること。(そうでなければ道徳科の指導と云えない)		
具体例	導入	<b>道徳的価値に関する内容の提示</b> 教師の語や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	<b>問題の発見や道徳的価値の想起など</b> ▶教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。 ▶自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本来の意味や意義への問いを持つ(原理・根拠・適用への問い)。	<b>道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など</b> ▶教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ▶日常生活で、大切さが分かかっていても、なかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。
	展開	<b>登場人物への自我関与</b> 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。	<b>問題の探究(道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など)</b> ▶道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいかなど、多面的・多角的に考え、議論を深める。 ▶グループでの話し合いなどを通して、道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 ▶道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。	<b>道徳的な問題場面の把握や考察など</b> ▶道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を實踐に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ▶価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているのかを考える。 <b>問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など</b> ▶ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ▶実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 <b>道徳的価値の意味の考察など</b> ▶役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取りうる行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ▶同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体験することを通して、実生活における問題の解決に見通しを持たせる。
終末		<b>教師の主な発問例</b> ● どうして主人公は、○○という行動を取ることができたのだろうか。(又はできなかったのだろうか) ● 主人公はどういう思いを持って、△△という判断をしたのだろうか。 ● 自分だったら、主人公のように考え、行動することができたらだろうか。	<b>教師の主な発問例</b> ● ここでは、何が問題になっていますか。 ● 何と何で迷っていますか。 ● なぜ○○(道徳的価値)は大切なのでしょう。 ● どうすれば△△(道徳的価値)が実現できるのでしょうか。 ● 同じ場面に出会ったら、自分ならどう行動するのでしょうか。 ● なぜ、自分はそれのように行動するのでしょうか。 ● よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。	
		<b>振り返り</b> 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらと交流して自分の考えを深めたりする。	<b>探究のまとめ(解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見)</b> ▶問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなど、話し合い等を通して考えを深める。 ▶問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ▶考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 ▶問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。	
		<b>まとめ</b> ▶教師による説話。 ▶本時を振り返り、本時で学習したことを、次にどのように生かすことができるかを考える。		▶道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめ、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

## 評価のポイント

道徳教育の評価は、教師が児童生徒一人一人の人的・道徳的な成長を温かく見守り、共感的な理解に基づいて、よりよく生きていこうとする努力を認め、勇気づける働きを持つものです。成長の振り返りや道徳性の育みを支援するものであり、児童生徒との温かな人格的なふれあいに基づくものであることが重要です。

### 道徳科における「評価」とは

- ▶ 児童生徒一人一人のよい点や可能性等を多様な側面で把握し、学期や学年にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点が大切です。
- ▶ 努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価になるよう工夫することが必要です。
- ▶ 児童生徒に自らの道徳性の成長を振り返る機会となり、教師にとっては指導計画や指導方法を改善する手掛かりとなります。そのため、常に指導に生かされ、児童生徒の成長につながるものでなくてはなりません。
- ▶ 「こんなことまで見てくれるんだ」といった評価が、児童生徒の次の成長につながります。

### 評価のポイント

- 数値による評価ではなく記述式。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価。
- 他の児童生徒との比較による相対的評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価。
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へ発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視。
- 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取る。
- 発達障害等の児童生徒について配慮すべき観点等を教師間で確実に共有。

### 「評価」の方法は

基本は、授業中の観察と児童生徒の発言、道徳ノート・ワークシートの自己評価や記述内容の見取りと分析です。

### 見取りと分析の注目点

- 他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から**多面的・多角的な見方に発展しているか**。
  - ▶ 自分と違う意見を理解しようとしている
  - ▶ 複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている 等
- 多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を**自分自身との関わりの中で深めているか**。
  - ▶ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている
  - ▶ 道徳的価値を実現することの難しさを自分ごととして捉え考えようとしている 等



あわせて、児童生徒による自己評価(振り返り等)や授業アンケート,他の教師による評価等を活用することが大切です。また,評価にあたっては,年間35時間の長いスパンで見取るため,道徳ノート・ワークシート,感想文などをファイリングしておきましょう。

### 道徳ノート・ワークシートによる振り返り(自己評価)例 (ねらいにせまるための学習指導過程を通して到達度を図る)

今日の学習をふりかえって

#### 小学校

	よくできた	できた	もう少し
① ○○(ねらいとする道徳的価値)について考えることができましたか	◎	○	△
② これまでの自分をふりかえって考えることができましたか	◎	○	△
③ 友達の思いや考えを聞いて考えることができましたか	◎	○	△
④ これからの自分に生かしていきたいことを考えることができましたか	◎	○	△

- ①主に「道徳的心情」「道徳的判断力」について問う。 ③主に「道徳的判断力」「道徳的心情」について問う。  
 ②主に「道徳的心情」「道徳的实践意欲と態度」について問う。 ④主に「道徳的实践意欲と態度」「道徳的判断力」について問う。  
 ※①～④とも先に書かれている資質・能力が優先。

#### 中学校

	たいへん ←	ふつう	→ まったく
① 新たな発見(考えること)があったか	5	4	3 2 1
② 共感・感動したか	5	4	3 2 1
③ 自分を振り返り,考えることができたか	5	4	3 2 1
④ 教材はよかったか	5	4	3 2 1

- ①主に「道徳的判断力」について問う。 ③主に「道徳的实践意欲と態度」について問う。  
 ②主に「道徳的心情」について問う。 ④教材が生徒の心に響くものであったかを問う。(授業改善)

※設問の表現は,ねらいや児童生徒の実態,教材によって変更すること。ただし,趣旨が異なったり,あいまいにならないよう留意すること。

## 「評価」の観点は

道徳の授業においては,学習指導の過程で期待する児童生徒の学習状況を具体的な姿で表したものと学習の成果等が評価の観点となります。

### 評価の観点

ねらいとする道徳的価値について

- ① 理解を深めることができたか ③ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えることができたか  
 ② 理解をもとに,自己を見つめることができたか ④ 自己(人間として)の生き方について考えを深めることができたか

### Check!

児童生徒の自己評価の機会や場を充実し,そうした姿勢や意識を児童生徒自身に育むことが,主体的に学ぶ意欲につながります。

## 「評価」の具体例

- ▶ 児童生徒や保護者に返す評価は、通知票(や指導要録)に加え、副票や補助資料、道徳ノート・ワークシートなどがあります。児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、P6「見取りと分析の注目点」に留意し、授業中の発言や会話、感想文や道徳ノート・ワークシートなどから、特に顕著と認められる具体的な状況を伝えます。
- ▶ 通知票の記述だけでなく、懇談会等の機会に道徳ノート・ワークシートをファイリングしたものを紹介するなど、より具体的に児童生徒や保護者に届くよう工夫しましょう。
- ▶ 記述にあたっては、年間35時間を通した視点を基本にして、大きくくりなまとまりを踏まえ、重点内容項目や特に顕著な学習状況が見られた授業での様子、感想文の内容等があれば、併記します。
- ▶ 下記に例を示しますが、各校で検討し、どのように進めていくのか共通理解してください。

### 通知票や指導要録の記載例

積極的に自分の意見を発言する姿勢がよく見られました。自分から周りの仲間も共に学べる機会をつくり、道徳の時間の学習の雰囲気を高めていました。「〇〇〇」の学習では、自分の経験に照らし、主人公に共感しつつ、親への感謝を感想に述べていて、心が温まりました。

教材のテーマを広い視野で捉え、具体的に考えることが得意でした。授業中、発言が苦手な仲間によく語りかけるなど、さりげない心遣いに感心しました。「〇〇〇」の学習での感想では、いじめに対する憤りと命の大切さについて深く考えている内容で感動しました。

授業を聞く姿勢、発言や感想文から毎回の授業で主題をよく考えていることがわかります。発言や感想文に、物事にとらわれない自然な受け止めがよく表れていました。特に、「〇〇〇」の学習では、仲間の意見を取り入れつつ、△△△という独自の考え方を深めていることがわかりました。

発言は多くありませんでしたが、授業に聞き入っている姿や感想文から、回を追うごとに主人公に共感したり、自分なりに考えを深めていることがわかりました。特に、「〇〇〇」の学習では、仲間とは違う視点に着目し、礼儀の大切さに気付くなど、着眼点の鋭さに感心しました。

毎回の授業の教材に共感しながら自分の考えを深めている姿がよく見られました。感性豊かな発言で、クラスの雰囲気を高めてくれました。どの感想文も人に対する優しさを感じさせるもので、今後もその優しさを大切に学校生活を送ってほしいと思います。

日常の様々な体験を通して、教材の主人公の思いを自分の生活に置き換え、実感として捉えようとしていました。「〇〇〇」の学習の感想文で書いていた「常に笑顔で過ごす」ことを実践して、クラスの仲間も笑顔にしてくれていることに感心しています。

大変素朴で素直な感性で発言するので、周りの仲間も共感したり、新たなことに気付かされたりする場面が多くありました。どの教材においても常に自分の立場に置き換えて考え、いろいろなものの見方や考え方があることを自分なりに具体的にイメージして理解していました。

授業中、仲間の発言を理解しようとする努力が見られました。仲間の意見や思いと自分の感情の源となる価値観を見つめると、自分が生きていくうえで大切にしたいものが見えてくると思います。

# 授業実践例① (小学校 低学年)

2年	主題名	感謝する心	内容項目	B-(7) 感謝
	教材名	しょうごいんかぶら	出典	京都市道徳資料集 夢いっぱい2年
	学習のねらい	聖護院かぶらを育ててきたおじいさんたちの気持ちを知ったときのたけしくんの気持ちを考えることを通して、自分たちを支えてくれている人たちに感謝しようとする心情を育てる。		
	本時の評価	自分たちを支えてくれている人たちへの感謝の気持ちを持つことの大切さに気付いている。		

	学習活動 (発問/★中心発問)	留意点	評価の視点 (評価の方法)
導入	1 「ありがとう」の言葉について交流する。 ① どのような時にありがとうの言葉を言いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「ありがとう」の言葉に目を向けさせておく。</li> <li>■ 本時のめあてを板書する。</li> </ul>	自分たちを支えてくれている人たちへの感謝の気持ちを持つことの大切さに気付いている。 (ワークシート)
展開前段	2 教材「しょうごいんかぶら」を読んで話し合う。 ② おじいさんは、どんな思いで「聖護院かぶら」を育てているのだろう。 ★③ おじいさんの気持ちを知って、たけしくんは、どんな気持ちになったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 挿絵をモニターで提示することで教材のイメージをもつことができるようにする。</li> <li>■ 「水やり」の動作化や生活科等での栽培体験と関係づけることで、仕事の大変さや仕事への思いが理解できるようにする。</li> <li>■ 考える時間をしっかりと確保し、自分の思いや考えをワークシートに書かせる。</li> <li>■ ペアや小グループ、全体で交流することで、友達の思いや考えを知り、自分の思いや考えを深めることができるようにする。</li> </ul>	
展開後段	3 これまでの生活を振り返り、ねらいとする道徳的価値について考える。 振り返り ④ 自分たちの身の周りの人で「ありがとう」を言いたい人はいますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 普段の学校生活や総合や特活などの他教科等の取組に目を向けさせる。</li> </ul>	
終末	4 今日の学習を振り返って、本時のめあてに対する自分の思いや考えを書きまとめ、交流する。 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『私たちの道徳』を参照しながら、自分の思いや考えを書きまとめられるようにする。</li> </ul>	

板書計画

みんなのまわりにも  
ささえてくれている人が...

ありがとう

かんしゃ

管理用務員さん 給食調理員さん  
かぞく 友だち 先生  
ちいきの人たち

おじいさんの気持ちを知って、  
たけしくんは、どんな気持ちに  
なったのだろう。

おじいさんありがとう。  
しょうごいんかぶらづくりを手伝いたい。  
ぼくたちのためにがんばって  
くれているんだ。ありがとう。  
自分にもできることはないかな。

こしがいたくなるよ

- みんなのために作っている。
- みんなの喜ぶ顔が見たい。
- しょうごいんかぶらを守りたい。
- おいしく食べてほしい。

「ありがとう」について考えよう

## 授業実践例② (小学校 中学年)

3年	主題名	郷土を愛する心	内容項目	C-(16) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
	教材名	動く はく物かん(時代祭)	出典	道徳教材・指導案集 一京都ゆかりの教材を用いて一
	学習のねらい	胸を張って歩くなおき君の思いを考えるを通して, 郷土の文化に親しみ, 郷土を大切にしようとする態度を養う。		
	本時の評価	郷土の文化に親しみ, 郷土を大切にしようとしている。		
導入	学習活動 (発問/★中心発問)	■留意点		評価の視点 (評価の方法)
	1 時代祭の写真やビデオを見て話し合う。 ① 祭りといえば, どんな祭りがあるでしょう。	■写真やビデオを用意することで, 祭りのイメージをもつことができるようにする。 ■本時のめあてを板書する。		郷土の文化に親しみ, 郷土を大切にしようとしている。 (発言内容・ワークシート)
2 教材「動く はく物かん」を読んで話し合う ② 時代祭に出ることになったなおき君は, どんなことを思っていたのだろう。 ③ お父さんやおじいちゃんの話聞いたなおき君はどんなことを考えたのだろう。 ★④ 胸を張って歩いてみたときのなおき君はどんなことを思っていたのだろう。	■時代祭の写真等を拡大して提示することで, 共感と関心をもって教材の世界に入り考えることができるようにする。 ■胸を張って歩いてみたなおき君の思いに共感できるようにする。 ■考える時間をしっかりと確保し, 自分の思いや考えをワークシートに書かせる。 ■ペアや小グループ, 全体で交流することで, 友達の思いや考えを知り, 自分の思いや考えを深めることができるようにする。			
展開後段	3 自分の生活を振り返り, 話し合う。 振り返り ⑤ 自分たちの町のいいところや楽しいところは何だろう	■写真などを用意して, 地域のよさについて語り合い共感し合えるようにする。		
終末	4 今日の学習を振り返って, 自分たちの町のいいところや楽しいところをなおき君に手紙を書く。まとめ 本時の自分たちの地域にまつわる祭りなどの話をゲストティーチャー(地域の方)から聞く。	■郷土を大切にしようとする思いが高まるように地域行事や祭り, 自然の様子のビデオを用意する。		
板書計画	<p>「きよひしを愛する心」について考えるよ</p> <p>動く はく物かん(時代祭)</p> <p>「時代祭」京都三大祭の一つ。十月にある。京都の人の時代時代のくらしがわかる。</p> <p>時代祭に出ること...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 顔が真っ白ではずかしいなあ。</li> <li>● みんなに見られていやだなあ。</li> </ul> <p>お父さんとおじいちゃんの話聞いて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● じつじつとじつじつと思った。</li> <li>● むかしからのお祭りはすばらしいなあ。</li> <li>● 京都はすごいなあ。</li> </ul> <p>むねをはって歩いてみました。</p> <p>「むねをはって歩いてみたときのなおき君はどんなことを思っていたのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● これからもむかしの時代のことを大切にしたい。</li> <li>● 自分もむかしからじつじつしているお祭りを大切にしたい。</li> <li>● むかしの人のようにむねをはりたい。</li> <li>● 自分が変わった。</li> </ul> <p>わたしの町は、こんな町です。</p> <p>お祭りのある楽しいまちです。自然が豊かなまちです。</p>			

## 授業実践例③ (小学校 高学年)

6年	主題名	自分を知る, 自分を変える	内容項目	A-(4) 個性の伸長
	教材名	わたしの大文字駅伝	出典	道徳教材・指導案集 一京都ゆかりの教材を用いて—
	学習のねらい	お母さんに「ももこ, 変わったね. よかったね.」と言われたときのももこさんの気付きを考えることを通して, 自分の短所を知り, それらを改め, 自分を変えようとする態度を養う。		
	本時の評価	自分の短所を知り, それらを改め, 自分を変えようとしている。		
	学習活動 (発問/★中心発問)		留意点	評価の視点 (評価の方法)
導入	1 自分の長所や短所について交流する。 ①自分にはいいところや直したいなあと思うところがありますか。		■自分の長所や短所に目を向けさせておく。 ■本時の「めあて」を板書する。	
展開前段	2 教材「わたしの大文字駅伝」を読んで話し合う。 ②お母さんに「続けられそうにないなら, 最初からやめておきなさい」と言われたとき, ももこさんはどんなことを思ったのだろう。 ③大文字駅伝の予選会が終わったときのももこさんはどんなことを思ったのだろう。 ★④お母さんに「ももこ, 変わったね. よかったね.」と言われたとき, ももこさんはどんなことに気付いたのだろう。		■簡単に大文字駅伝の説明をしておく。 ■挿絵やキーワードを提示しながら, 教材を読む。 ■児童の発言を受けて, その時のお母さんの思いにもせまる。 ■お母さんの言葉とももこさんの様子を板書する。 ■考える時間をしっかりと確保し, 自分の思いや考えをワークシートに書かせる。 ■ペアや小グループ, 全体で交流することで, 友達の思いや考えを知り, 自分の思いや考えを深めることができるようにする。	
展開後段	3 これまでの生活を振り返り, ねらいとする道徳的価値について考える。 <b>振り返り</b> ⑤これまでに, 自分の短所に気付き, 直そうとしたことはありますか。その時, どんな気持ちでしたか。		■大文字駅伝の取組以外の経験に目を向けさせる。 ■ももこさんの思いに共感させながら, これまでの自分を振り返らせる。	
終末	4 今日の学習を振り返って, 本時のめあてに対する自分の思いや考えを書きまとめ, 交流する。 <b>まとめ</b>		■『私たちの道徳』を参照しながら, 自分の思いや考えを書きまとめられるようにする。	自分の短所を知り, それらを改め, 自分を変えようとしている。 (ワークシート)

「自分を知る、変える」の学びの振り返り

考えよう

わたしの大文字駅伝

「続けられそうにないなら、

最初からやめておきなさい」

- あきこさんが参加するのだからがんばる。
- やっぱり心配だからやめようかな。
- せっかくなのでやる気になっているのにな……。

大文字駅伝の予選会が終わる

- 本選に出たかったな。
- みんなといっしょにがんばれてよかった。
- 悔しい。●残念だ。
- もう一度挑戦したい。

「ももこ, 変わったね. よかったね.」  
と言われたとき, ももこさんはどんなことに  
気づいたのだろう。

大きくうなずいた

- わたしもがんばれる力をもっている。
- 自分は最後までやることができる。
- これまでの自分ではもうない。
- 自分は変わった。

自分を知る、変える

板書計画

## 授業実践例④(中学校)

2年	主題名	望ましい生活習慣	内容項目	A-(2) 節度, 節制
	教材名	ニューヨークを救ったアイディア	出典	道徳教材・指導案集 一京都ゆかりの教材を用いて
	学習のねらい	ニューヨークでの実際の取組が, 他の取組より効果を上げた事例を通して, 望ましい生活習慣を身に付け, 節度を守り, 節制に心掛け, 安全で調和のある生活をしようとする意欲を高める。		
	本時の評価	小さな気のゆるみに気付き, 望ましい生活習慣に対して考えを深め, 充実した生活を過ごしていこうとする意欲を高めている。		

	学習活動 (発問/★中心発問)	留意点	評価の視点 (評価の方法)
導入	1 かつてのニューヨークの状況について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■本時の「めあて」を提示する。</li> <li>■現時点でのクラス全体の共通解を確認する。</li> </ul>	議論や思考に積極的に参加し, 友達の考えを聞いたりする中で多面的・多角的に考え, 充実した生活を過ごしていこうとする意欲を高めている。(ワークシート・観察)
展開前段	2 ニューヨークの問題への解決策を考える。 ①「アメリカ最大の犯罪都市だったニューヨークが, 凶悪犯罪の発生をなくすために, 取り組んだことは何だろう」 ※警官・カメラを増やす, 罰則等 3 教材「ニューヨークを救ったアイディア」を読む。 ★②「実際の取組(落書きを消す, 軽犯罪を取り締まる)が, 他の取組より効果を上げたのはなぜだろう」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             凶悪犯罪をなくすためにこの取組がなぜ有効だったのかを考え, 活発に議論する。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■最近のテロ対策などにも触れ, どうすることで効果があるのか, 考えさせる。</li> <li>■挙手にて理由も含めて発表させる。</li> <li>■四分割の学習ツールを使い, それぞれの特徴や利点などを整理させ, 「落書き消し」が最も有効だった理由を班活動で探究する。</li> <li>■外発的でなく内発的なものの大切さに気付かせる。</li> <li>■罰ではなく心を変えた効果に気付かせる。</li> <li>■大きな間違いは小さな気のゆるみから始まることに気付かせる。</li> </ul>	
展開後段	4 自分たちの生活を見つめる。「振り返り」 ③「あなたが気を付けたい小さな気のゆるみと改善する効果は？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒の小さな気のゆるみを振り返らせ, 自律した行動を意識させる。</li> </ul>	
終末	5 授業の「まとめ」 「学びを自己評価し, まとめよう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ワークシートに静かに記入させ, 学級通信などで紹介する。</li> </ul>	

**望ましい生活習慣とは**

ニューヨークが取り組んだことは?

- 警官を増やす
- 罰金を取る
- 防犯カメラを増やす
- 罰則を重くする
- 金属探知機
- 武器を取り上げる
- 環境を良くする
- お金を配る

**治安をよくするためにはどうするか**

身の回りにおける小さな気のゆるみと改善して得られること

- 部屋をきちんと片付けられない
- ▼ 気持ちが引き締まる
- 宿題や提出物を忘れる
- ▼ 成績が上がる
- 友達にきついことを言ってしまう
- ▼ 相手を傷つけない

# 小中一貫で進める道徳教育

小中一貫で進める道徳教育は、共通の方針、教師自身の資質向上、児童生徒の成長の様子等の共有を図りやすいなどの利点があります。また、道徳教育の連続性・一貫性の観点から、共通の方針で小中学校が連携して取り組むことにより、中学校区で家庭や地域と共に学ぶ取組につなげやすい側面もあります。なお、複雑な通学区域を有する学校においては、その実情に応じた小中、小中学校間の連携をより深める必要があります。

## 1 管理職、道徳教育推進教師のリーダーシップ

小中学校の教師間の指導方法等の違いを教師同士が認めた上で互いに学び合い、義務教育9年間で児童生徒を育てる発想を持つことが大切です。

そのためには、各学校長等の管理職がリーダーシップを発揮し、道徳教育推進教師のコーディネートにより、小中学校の教師が一体となって取り組んでいく体制を整える必要があります。

## 2 目指す子ども像とともに評価指標を共有

小中学校の教師が学習指導上や生徒指導上の成果に加え、児童生徒の変容がどのようなであったかについて可視化し、効果を検証するための評価指標について共有することが大切です。

評価指標の検討の際には、特に重視したい指標が何かについて議論することで、目指す子ども像・学習のあり方などについて確認していくことが重要です。

## 3 児童生徒の発達段階と接続期を踏まえる

「中1ギャップ」の言葉が象徴するように、特に中学校に入学して間もない生徒は、小学校と中学校での学習面・生活面をはじめとする段差に戸惑うことがあります。

この段差を円滑に乗り越えるため、小学校5・6年生と中学校1年生で同じスタイル・テーマで道徳を実践するなど、その接続を意識した指導を展開することが効果的です。

## 4 小中合同研修会など小中連携した取組の推進

小中合同研修会のテーマに道徳を取り上げたり、中学校区内の小中学校で互いに道徳の授業を参観し、意見交換を行ったりするなど、小中連携した取組が大切です。

また、6月・10月の道徳教育推進月間において、家庭や地域の方に参画いただくことで、児童生徒に地域への愛着や地域の一員としての自覚、人と人の絆の大切さの涵養につなげることも重要です。

道徳教育推進教師が中心となり、意図的・計画的な学び合いや授業の質を高めていくことが求められます。

## 事例紹介(旭丘中学校ブロック/待鳳小, 鳳徳小, 鷹峯小)

「語りのある道徳」にするためには、「教師同士の語り合いの場」を作ることが大前提となります。そのために、旭丘中学校では、「職員室での語り合い」「小学校教職員との語り合い」を大切にしながら取組を推進しています。

- ▶ 4校道徳教育推進教師での語り合い(年3回)
- ▶ 4校教頭及び道徳教育推進教師の合同の語り合い
- ▶ 4校夏季合同道徳研修での語り合い



Check!

語り合い  
テーマ 「児童理解・生徒理解における道徳」、「道徳と教科・教科外活動との関連」  
「実生活に結び付ける道徳の授業の工夫」、「道徳における評価」

また、4校が相互に道徳授業を参観し、研究協議へ参加しています。加えて、中学校の北上支部道徳授業研修へ3小学校の教員が参加するなど、小中の垣根を越えた交流が盛んです。教務主任、研究主任等が中心となり、4校共通の学習計画である「HATT(H:鳳徳小, A:旭丘中, T:待鳳小, T:鷹峯小)スタンダード」を作成する予定です。

## 家庭・地域と連携した道徳教育

次期学習指導要領における「家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること」は、これからの道徳教育において極めて重要な視点です。なぜなら、道徳教育は児童生徒の日常生活のすべての機会や場面で行われるものであり、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、一貫した方針のもとに進めなければならないからです。家庭や地域との共通理解を深め、授業や地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど相互の連携を図っていきましょう。

### ① 相互の共通理解を図る

- ▶ 学校は、道徳教育についてどのように考えているか、何を重点としているのか、どのような学習に取り組んでいるかなどの情報を提供し、理解と協力を求めることが大切です。
- ▶ 「道徳教育推進月間(6月、10月)」の公開授業や普段の道徳の授業で話し合われたことを学級だよりやホームページに取り上げ、児童生徒の感想や学んだ内容に関する保護者の意見などを掲載し、各家庭や地域で話し合う場を設けてもらうなどの工夫も考えられます。

### ② 本音を共有しあうことも大切

- ▶ しつけ、信頼関係、基本的な生活習慣、望ましい人間関係など人間形成の第一歩は家庭教育であることを繰り返し伝えることも大切です。一方的な押し付けとならないよう、どうしたらそれができるか、学校としてどのようなサポートができるかなどを中心に発信していきます。
- ▶ 地域の人々は、学区の子どもたちの様子をどう見ているのか、学校に何を期待しているのか、地域の人々の願いや要望、意見に耳を傾け、道徳教育に生かしていくことが大切です。

### ③ 共に進める

- ▶ 授業参観日などに道徳の授業を公開し、保護者や地域の人々に参画してもらうことで、より効果的に道徳教育を進めることができます。地域の人々の体験や職業等を生かして講師役を担ってもらうことや、授業公開後に教師と保護者、地域の人々が話し合う場を設けることなどが考えられます。
- ▶ 地域では、様々な体験活動や合同清掃活動、スポーツ大会、伝承行事等が行われています。児童会や生徒会が中心となって積極的に参画したり、必要に応じて、学校が運営面で協力したりすることが必要です。

### ④ それぞれの教育力を活用する

- ▶ 地域教材の開発に必要な情報等を地域の人々に提供してもらうことも考えられます。児童生徒はもとより、地域の人々、教師にも地域や郷土の素晴らしさを再認識し、その発展に努めようとする意欲を高めることにつながります。



# 道徳教育推進教師の役割

道徳教育推進教師は、校長のリーダーシップのもと、学校全体の道徳教育を推進・コーディネートする役割を担います。道徳の授業改善に向けた部会などの校内組織を機能させ、教師一人一人の授業づくりの支援、家庭・地域との連携を深める活動などを行います。全ての教師に参画・分担・協力する意識を促し、課題と目標を共有し、組織的な実践につなげていきましょう。

## 道徳教育推進教師の役割

- ▶ 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ▶ 道徳の授業の充実と指導体制に関すること
- ▶ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ▶ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ▶ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に  
関すること
- ▶ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ▶ 道徳の授業の公開など家庭や地域社会との連携に  
関すること
- ▶ 道徳教育における評価に関すること

## 道徳教育推進教師と道徳主任の違いは？

道徳教育推進教師にはコーディネーターとしての役割があることが、道徳主任と大きく違うところです。例えば、〇〇科の主任は、その教科についてのみ校長の監督のもと、連絡調整及び指導助言にあたります。それに対して、道徳教育は学校教育全体で行われ、全ての教師にそれぞれの役割があります。道徳教育推進教師は、全ての教育活動をフィールドとして、学校全体を見渡し道徳教育に関するそれぞれの組織を動かすなど、全体をコーディネートする役割があります。

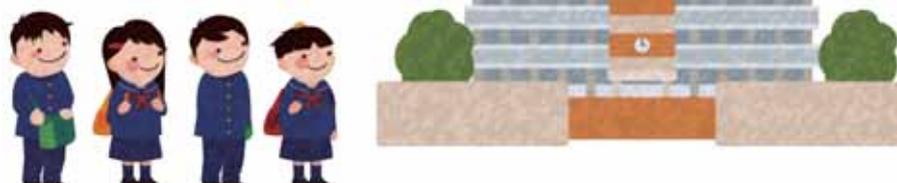
## 道徳教育のコーディネート場面と内容(PDCAサイクル)



### Check

道徳教育推進教師の役割は重要ですが、一人で担えるものではありません。例えば、資料作成やワークシートの分析に全教師が協力し合える環境や雰囲気をつくること、他の教師と相談し合ったり、情報を共有したりするなど役割は様々です。そして、中学校区内の他校の道徳教育推進教師やリーダー教師\*との「横のつながり、縦のつながり」も大切にしてください。

(※リーダー教師：各行政区に配置。他校・校種間連携の窓口や研修の企画、家庭・地域との連携モデル等の活動を推進・調整・助言する役割を担う)



# 「特別の教科 道徳(道徳科)」の内容項目の一覧

キーワード	小学校第1学年及び第2学年(19)	小学校第3学年及び第4学年(20)
<b>A 主として自分自身に関すること</b>		
善悪の判断, 自律, 自由と責任	① よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。	① 正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。
正直, 誠実	② うそをついたりごまかしをしたりしないで, 素直に伸び伸びと生活すること。	② 過ちは素直に改め, 正直に明るい心で生活すること。
節度, 節制	③ 健康や安全に気を付け, 物や金銭を大切に, 身の回りを整え, わがままをしないで, 規則正しい生活をする。	③ 自分でできることは自分でやり, 安全に気を付け, よく考えて行動し, 節度のある生活をする。
個性の伸長	④ 自分の特徴に気付くこと。	④ 自分の特徴に気付く, 長所を伸ばすこと。
希望と勇気, 努力と強い意志	⑤ 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	⑤ 自分でやろうと決めた目標に向かって, 強い意志をもち, 粘り強くやり抜くこと。
真理の探究		
<b>B 主として人との関わりに関すること</b>		
親切, 思いやり	⑥ 身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。	⑥ 相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。
感謝	⑦ 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	⑦ 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に, 尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
礼儀	⑧ 気持ちのよい挨拶, 言葉遣い, 動作などに心掛けて, 明るく接すること。	⑧ 礼儀の大切さを知り, 誰に対しても真心をもって接すること。
友情, 信頼	⑨ 友達と仲よくし, 助け合うこと。	⑨ 友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。
相互理解, 寛容		⑩ 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, 相手のことを理解し, 自分と異なる意見も大切にすること。
<b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b>		
規則の尊重	⑩ 約束やきまりを守り, みんなが使う物を大切にすること。	⑩ 約束や社会のきまりの意義を理解し, それらを守ること。
公正, 公平, 社会正義	⑪ 自分の好き嫌いとらわれないで接すること。	⑪ 誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接すること。
勤労, 公共の精神	⑫ 働くことのよさを知り, みんなのために働くこと。	⑫ 働くことの大切さを知り, 進んでみんなのために働くこと。
家族愛, 家庭生活の充実	⑬ 父母, 祖父母を敬愛し, 進んで家の手伝いなどをして, 家族の役に立つこと。	⑬ 父母, 祖父母を敬愛し, 家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
よりよい学校生活, 集団生活の充実	⑭ 先生を敬愛し, 学校の人々に親しんで, 学級や学校の生活を楽しくすること。	⑭ 先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
伝統や文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	⑮ 我が国や郷土の文化と生活に親しみ, 愛着をもつこと。	⑮ 我が国や郷土の伝統と文化を大切に, 国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解, 国際親善	⑯ 他国の人々や文化に親しむこと。	⑯ 他国の人々や文化に親しみ, 関心をもつこと。
<b>D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること</b>		
生命の尊さ	⑰ 生きることのすばらしさを知り, 生命を大切にすること。	⑰ 生命の尊さを知り, 生命あるものを大切にすること。
自然愛護	⑱ 身近な自然に親しみ, 動植物に優しい心で接すること。	⑱ 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り, 自然や動植物を大切にすること。
感動, 畏敬の念	⑲ 美しいものに触れ, すがすがしい心をもつこと。	⑲ 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
よりよく生きる喜び		

小学校第5学年及び第6学年(22)	中学校(22)	キーワード
<p>①自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。</p> <p>②誠実に、明るい心で生活すること。</p>	<p>①自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p>	<p>自主、自律、自由と責任</p>
<p>③安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。</p>	<p>②望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。</p>	<p>節度、節制</p>
<p>④自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。</p>	<p>③自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。</p>	<p>向上心、個性の伸長</p>
<p>⑤より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。</p>	<p>④より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。</p>	<p>希望と勇気、克己と強い意志</p>
<p>⑥真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。</p>	<p>⑤真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。</p>	<p>真理の探究、創造</p>
<p>⑦誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。</p> <p>⑧日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。</p>	<p>⑥思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。</p>	<p>思いやり、感謝</p>
<p>⑨時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。</p>	<p>⑦礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。</p>	<p>礼儀</p>
<p>⑩友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。</p>	<p>⑧友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。</p>	<p>友情、信頼</p>
<p>⑪自分の考えや意見を相手に伝えるときも、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p>	<p>⑨自分の考えや意見を相手に伝えるときも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。</p>	<p>相互理解、寛容</p>
<p>⑫法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。</p>	<p>⑩法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。</p>	<p>遵法精神、公德心</p>
<p>⑬誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。</p>	<p>⑪正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。</p>	<p>公正、公平、社会正義</p>
<p>⑭働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。</p>	<p>⑫社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。</p>	<p>社会参画、公共の精神</p>
<p>⑮父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。</p>	<p>⑬勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。</p>	<p>勤労</p>
<p>⑯先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。</p>	<p>⑭父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。</p>	<p>家族愛、家庭生活の充実</p>
<p>⑰我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。</p>	<p>⑮教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。</p>	<p>よりよい学校生活、集団生活の充実</p>
<p>⑱他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。</p>	<p>⑯郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。</p>	<p>郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度</p>
	<p>⑰優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。</p>	<p>我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度</p>
	<p>⑱世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。</p>	<p>国際理解、国際貢献</p>
<p>⑲生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。</p>	<p>⑲生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。</p>	<p>生命の尊さ</p>
<p>⑳自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。</p>	<p>⑲自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。</p>	<p>自然愛護</p>
<p>㉑美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。</p>	<p>㉑美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。</p>	<p>感動、畏敬の念</p>
<p>㉒よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。</p>	<p>㉒人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。</p>	<p>よりよく生きる喜び</p>

#### 発行

---

京都市教育委員会学校指導課, 京都市総合教育センター

#### 参考文献等

---

- 小学校(中学校)学習指導要領解説 特別の教科 道徳編
- 文部科学省 「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」報告
- 「学習指導要領の一部改正に伴う小学校, 中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(平成28年7月29日付け通知28文科初第604号)